

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	マスト細胞活性化症候群を基盤とする難治性炎症性病態の比較動物学的再定義
研究代表者	松田 浩珍（東京農工大学・大学院農学研究院・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>近年、アレルギーのみならず各種の炎症性疾患においてマスト細胞の活性化がその起点となることが明らかにされており、マスト細胞研究の重要性は増している。本研究は、マスト細胞の活性化を起点として複数の臓器に症状が発現する「マスト細胞活性化症候群」を比較動物学的に検証し、マスト細胞の新たな側面を明らかにしようとすることを目的としている。応募者は、この分野で極めて高い業績を上げており、その集大成とも言える研究計画である。今後もこの分野の世界の研究をリードする可能性が高く、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。なお、比較動物学的な網羅的解析から得られる膨大なデータをどのように処理するのか、また個々の研究について何をどこまで解明するのかが必ずしも明確ではなかったため、この点に十分配慮して具体的な成果につながるよう研究を実施すべきである。</p>